

〈第19回定期総会 阿部保吉会長あいさつ〉

代議員ならびに傍聴者の皆さん大変ご苦労様です。皆さんの中央・地方におけるご活躍に対し心から敬意を表します。

そしてご多忙な中、早朝よりご臨席賜りましたご来賓の皆様、日頃のご指導ご支援と併せ深く感謝を申し上げます。

さて、東日本大震災から4年4ヵ月が経過しました。被災された皆様にとりましては長くて過酷な年月であったと思います。それにも拘わらず被災地の復興遅れが今も厳しく問われています。政府はその理由を国民に説明すべきだと考えます。また、福島原発の事故による避難者は現在も1万人を超えています。政府は福島県楢葉町の避難指示を近く解除すると説明しています。しかし、水道水ダムに沈殿する放射性物質の除染を求める被災者に対し、経産省の高木副大臣は「水道水が安心と思うか思わないかは心の問題だ」と発言し、被災者の不安を増幅させています。私たちはこの傲慢な政府の態度に強く抗議するとともに、被災地の早期の復興・再生に向け今後とも支援し続けてまいります。

政府は6月30日、「いわゆる骨太方針2015」を閣議決定しました。それにより来年度以降、社会保障費を3年間で1兆5千億円の削減を断行するとしています。かつて小泉内閣当時も同様に削減を強行しましたが、年間5千億円もの削減は極めて異常なことです。これが強行されれば年金をはじめ医療・介護・福祉における給付の削減と負担増を余儀なくされることは必死です。

これを跳ね返すために本総会で決定する政策・制度要求の取り組みが極めて重要となります。昨日の全国組織代表者会議で意思統一しましたように、本総会后直ちに政府要求と政党要請を行うと同時に地方退職者連合における自治体要請を早期に実施するよう要請いたします。

さらに、骨太方針には「多様な働き方の促進」についての記載もありますが、今国会には既に労働者派遣法と労働基準法の改悪案が提出され、連合は対決法案として廃案を目指して取り組んでいます。現在、非正規労働者の多くは厚生年金や健康保険から除外されていますが、労働者保護ルールの改悪はこうした労働者をさらに増大させることとなります。安倍政権と企業の「今さえ良ければ良い」とする誤った雇用政策は、やがて低年金や無年金の高齢者を増大させ、将来これを救済するための財源負担を国民に強いることとなります。退職者連合は、労働者を犠牲にする成長戦略に断固として反対し、連合と一体の行動を展開しています。

本年は戦後70年の節目の年を迎えます。日本はあの愚かな戦争のために、

広島・長崎への原爆投下、沖縄の地上戦、北方4島も奪われ、そして全土に及ぶ米軍の空襲により多くの国民が犠牲になりました。その反省から日本は、戦争をしない平和国家として再出発したことを忘れてはならないと思います。しかし、安倍政権の暴走で平和の危機に直面しています。国会で山場を迎えている集団的自衛権の行使は明らかに憲法違反であり、安全保障関連法案は戦争に加担するための法案であることは明白です。そして憲法の解釈変更で集団的自衛権の行使を許せば、次は徴兵制の導入へと暴走することは明らかです。国会で安倍首相が連発する海外で武力を行使する「積極的平和主義」などはあり得ないことです。また、「国を守るのは憲法学者ではないわれわれ政治家だ」との発言に至っては正気とはとても思えません。

最近この法案の撤回、廃案、慎重審議を求める自治体決議が相次いでいます。例えば長野県では、県議会と全市町村の74%・57市町村で決議が採択されています。安倍首相がどう詭弁を弄しても、国民の半数以上が反対するこの法案は廃案しかないと考えます。そのために民主党を中心とする野党各党のご奮闘をお願いする次第です。

このように課題が山積する政治情勢のなかで、来年の参議院選挙の取り組みはかつてなく重要になっています。私たちは連合組織内候補の必勝を期すると同時に、選挙区選挙を含む推薦候補の当選のために全力で取り組んでまいります。

最後に、組織の拡充につきましては、中央・地方の役割を明確にした上で取り組んできました。その結果、現在約80万人の組織化を実現していますが、中期目標の100万達成のためには、連合との連携を強化しつつ更なる取り組みが必要です。また、中期目標の100万組織化を展望し、組織体制と組織機構を整備するために規約・規則等の検討を行ってきました。その改正案を本総会に提案しておりますのでご承認をお願いします。組織の拡大と規約改正案は一体のものでありますが、個人加入を含め仲間を増やし、いま期待されている地域貢献に取り組む地域で顔の見える運動を進めたいと思います。

連合の「幸せさがし展」への退職者の応募作品は昨年より3倍以上になっています。文化活動とは「現役時代は組織の団結のために」、そして「退職後は仲間の集いのために」、今後さらなる発展を目指して取り組まれるようお願いしまして挨拶とします。